

祝 辞

秀峰千軒岳から吹く風も日に日に冷たさを増し、晩秋の様相を深める今日、各界の皆様のご臨席をいただき、ここに、令和四年度福島町表彰式が開催されるにあたり、一言、お祝いを述べさせていただきます。

ただいま、功労表彰、顕功表彰、並びに善行表彰を受賞されました皆様、誠におめでとうございませす。

心よりお祝いを申し上げます。

受章されました皆様には、それぞれの分野で、町進展のため、誠心誠意精励されご貢献を頂きました事に対し、感謝の気持ちを込めて心から敬意を表します。

皆様方の日頃からの地域に根ざした惜しみないご尽力の積み重ねが、地域に共鳴し、大きな勇気を与え、今日の福島町の大きな支えになってきた

ものと確信いたします。

国政は、新型コロナウイルス感染症の影響を受け、回復基調にあった景気も大きく後退し、地方は、さらに厳しく、異常気象による度重なる自然災害の大惨禍、大震災の傷跡、原発事故への対応、少子高齢化が急激に進行する中での福祉対策の苦悩等々、依然として不安を払拭できず、各分野での動揺がなお続いております。

さらに、地方分権から地方創生へと、地方に多様な選択を容認するが、財源や政策を含め自立と自主性を主体とした地域間競争を強く求める厳しい状況はなお続きます。

町づくり基本条例・議会基本条例を基に、町の未来を展望し、果敢に挑戦するための実行課題は、町民・行政・議会が「互いに共鳴する協働」であり、政策を作る過程にどう関わり、役割をどう分担し、実行していくかが重要であります。

「地方自治の本旨」は「自分のことは自分で決め

るといふ自己決定」の延長線上にあると言います。

福島町の身の丈にあった仕組みを自分たちで協働して作用させる事であり、私たちの町の事を、自ら考え、自ら参画・決定していく事でもあります。

この事を明確に自覚し、それぞれの分野で知恵を出し合い、力を出し合い、支え合い、勇気と英断をもって引き続き町づくりに取組んでいかなければなりません。

私達の町、福島には、私達が誇れる歴史があり、伝統があり、文化があり、そして永々と築きあげられてきた、私達の町の暮らしがあります。それをしっかりと引き継ぐ、その事が未来の福島へ夢を託す子供達への私達の責任でもあります。

このような意味からも、晴れの表彰を受けられました皆様方の、町づくりに対する日頃からの情熱が、更に大きな輪となり、礎となって、力強く自立し続ける確かな町政の推進へと導くものと確信いたしております。

今後とも、福島町発展のために、ご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げますとともに、なお一層のご活躍とご多幸、ご健勝を、心からご祈念申し上げます、お祝いの言葉と致します。

令和四年十一月七日

福島町議会議長

溝部 幸基